

1 単元名 「秋の果物屋さんを開こう！」

2 単元の目標

- 果物を表す表現に慣れ親しむ。 (知識・技能)
- 果物を表す表現や好きな果物について尋ねる表現を使って、友達や先生とコミュニケーションを図る。 (思考力・判断力・表現力)
- 果物を表す表現や好きな果物について尋ねる表現に関心を持ち、進んで友達や先生とコミュニケーションを図ろうとする。 (主体的に学習に取り組む態度)

3 関連する学習指導要領における領域別目標

聞くこと	ア ゆっくりはっきりと話された際に、自分のことや身の回りの物を表す簡単な語句を聞き取るようにする。
話すこと [やり取り]	イ 自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うようにする。

4 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと	<p>〈知識〉活動をする上で必要な表現や語彙, Do you like~? Yes,I do./No,I don't. I like~. などを聞くことに慣れ親しんでいる。</p> <p>〈技能〉活動をする上で必要な表現や語彙, Do you like~? Yes,I do./No,I don't. I like~. などの表現を聞き取る技能を身に付けている。</p>	<p>友達や先生とコミュニケーションを図る際に、相手の好きな果物について聞いて、内容を捉えている。</p>	<p>友達や先生とコミュニケーションを図る際に、相手の好きな果物を聞いて、内容を聞こうとしている。</p>
話すこと 【やり取り】	<p>〈知識〉活動をする上で必要な表現や語彙, Do you like~? Yes,I do./No,I don't. I like~. などの表現について慣れ親しんでいる。</p> <p>〈技能〉活動をする上で必要な表現や語彙, Do you like~? Yes,I do./No,I don't. I like~. などの表現を伝え合う技能を身に付けている。</p>	<p>友達や先生とコミュニケーションを図る際に、自分の好きな果物について答えたり、相手の好きな果物について尋ねたりしている。</p>	<p>友達や先生とコミュニケーションを図る際に、自分の好きな果物について答えたり、相手の好きな果物について尋ねたりしようとしている。</p>

5 指導上の立場

(1) 単元観

本単元では、ゲームやインタビューなどの活動を通して、自分の好きな果物について話したり、相手の好きな果物について尋ねたりする表現に慣れ親しみ、秋の果物を表す表現や、Do you like~? Yes,I do./No, I don't. I like~.などの表現を用いたコミュニケーションを図ることをねらいとしている。

本単元の言語材料である「秋の果物」に関する英語は、1年生にとって、日常生活の中でも聞いたこと

があるという馴染みやすさがある。2年生にとっては、既習内容であるため、Do you like~? Yes, I do. / No, I don't. I like~.などの新たな表現を学習できることなどに利点がある。また、生活科「きせつとなかよし あき」の学習として、1・2年生で校外学習に行き、秋の自然物に触れる活動もしているため、「秋の果物」という言語材料は、児童にとって単元への抵抗が少なく、学習に取り組みやすいのではないかと考える。本時では、1・2年生で好きな秋の果物についてのインタビューを行う。改めて聞かなければ知り得なかった友達のことを知ったり、そこから自分と友達の共通点を見つけたりするなど、楽しく学習を進めながら、秋の果物を表す表現や、Do you like~? Yes, I do. / No, I don't. I like~.などの表現に慣れ親しみ、「聞くこと」「話すこと【やり取り】」の素地を養えるようにする。

また、単元ゴールを、幼稚園に行つて「秋の果物屋さん」を開くことに設定する。そのために、本時のActivityのインタビューでは、異学年で交流することにより、英語を用いた会話を楽しみながら、幼稚園児や他学年との交流もしてみたいという思いを高められるようにする。そして今後は、生活科と関連させながら、幼稚園で「秋の果物屋さん」を開くにあたって、どんな店を開けば幼稚園児が楽しめるか、店で売る果物をどのくらい準備しておくとか良いかなど、相手意識をもった視点で、単元ゴールに向かって主体的に活動できるようにしたい。

本単元を通して、必要な語彙や表現に慣れ親しみ、様々な相手や場面において、英語でのコミュニケーションの経験を積むことで、自分たちが学んできたことを活かせる喜びを感じることができるようになりたい。

## (2) 児童観（1年生 男子5名 女子8名 計13名）

### ○1年生（男子5名 女子8名 計13名）

1年生13名のうち、9名は幼稚園のときに英語特区での活動を経験しているため、英語に対して意欲的であり、楽しく踊ったり歌ったりする姿がよく見られる。一方で、6月に行った英語アンケート（※図1）からは、「英語の勉強は楽しいですか。」の質問に対し、23%の児童が否定的な回答をしている。また、英語特区での活動を経験していない児童は、入学当初の外国語活動ではあまり英語に対して興味を示していない状況であった。リズムにのって発音したり、友達と一緒にゲームを通して伝え合ったりする活動を重ねることで、進んで授業に参加するようになってきている。

本時では、音楽やリズムにのって単語や表現を覚えたり、2年生や幼稚園児と英語を使って話す機会を増やしたりすることで、楽しく学習に臨めるようにしたい。

### ○2年生（男子7名 女子2名 計9名）

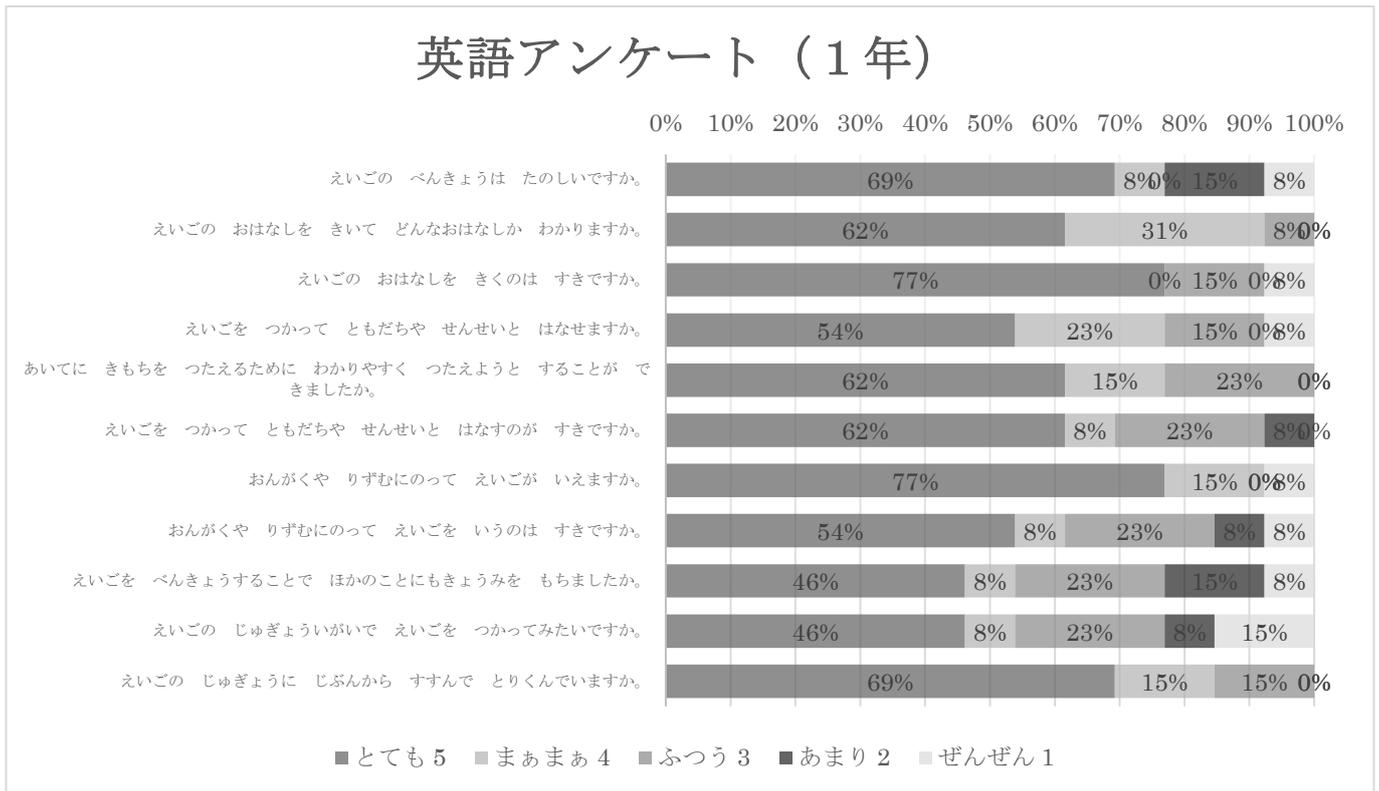
2年生は、6月に行ったアンケートの結果（図2）から、英語の授業には、自分から進んで取り組んでいる児童が多く見られることが分かる。一方で、他者とコミュニケーションをとることに関しては、少し課題がある。本単元を通して、1・2年生で英語を勉強することで、2年生が1年生に対してサポートをしたいという気持ちが生まれ、表現や語彙の習得に意欲的になったり、分かりやすく伝えることについて考えたりできるようにしたい。

### ○全体

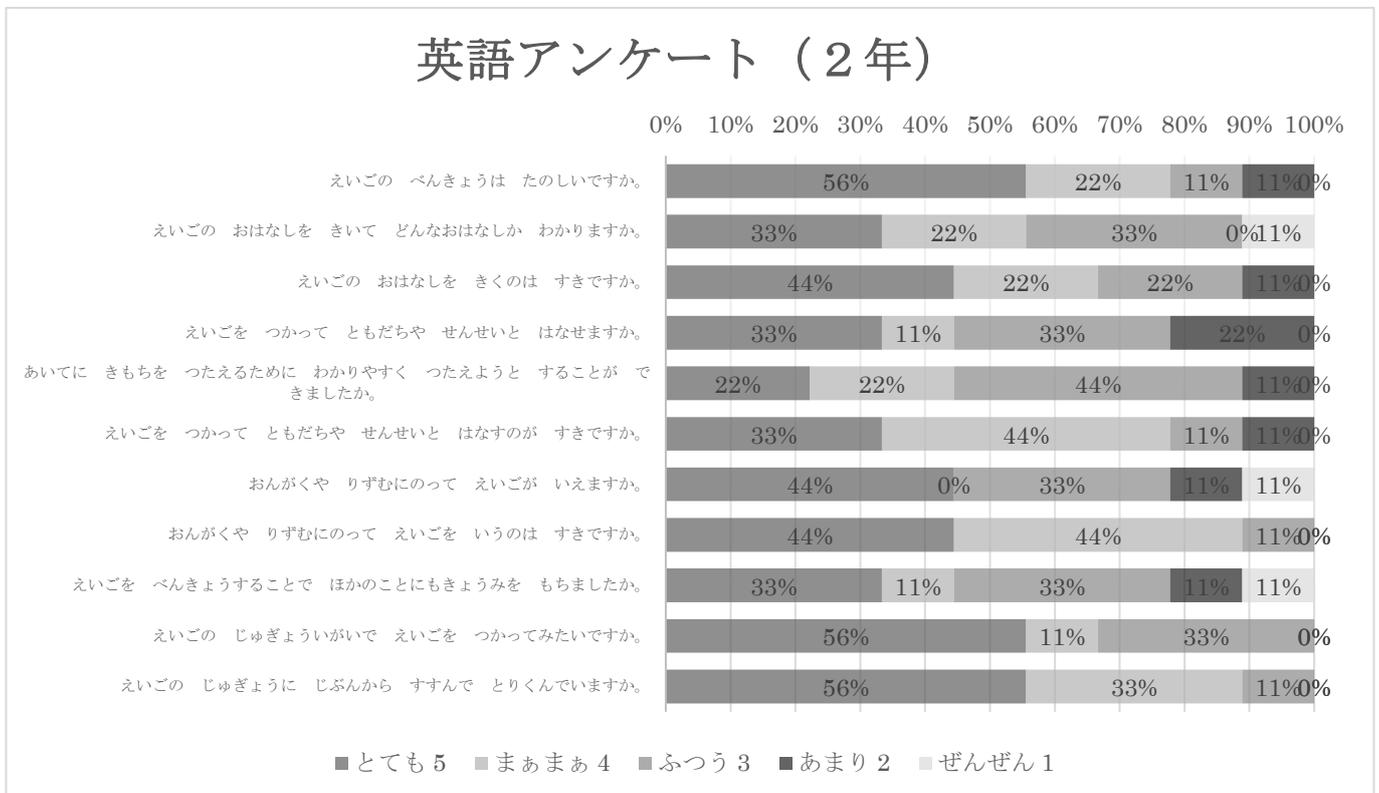
1年生と2年生は4月からピア・サポート活動により、生活科の学校探検、サツマイモ畑作りなどを共にしてきており、2年生は、1年生の頑張りを認めながらも、もっと教えてあげたいという思いを強めている。また、1年生は2年生を身近な手本として、一緒に学習することで、学びを深めている。本単元では、さらに学習を進めていく中で、幼稚園児や1・2年生以外の他学年の児童との交流もしてみたいという思いを高め、幼稚園での交流を通して、英語を使って交流することの楽しさを感じ、児童が自ら広い世界に目を向け、たくさんの人と関わりたいという思いをもつことを期待する。

また、単元ゴールとして、幼稚園に行つて「秋の果物屋さん」の店を開くことで、外国語活動の授業にとどまらず、様々な場面で英語を使う楽しさを感じ、興味を広げていく児童の姿が見られるように努めたい。

※図1：今年度6月に1年生に対して行ったアンケート結果（n = 13）



※図2：今年度6月に2年生に対して行ったアンケート結果（n = 9）



### (3) 研究主題との関わり

本校の研究主題は「自分の思いや考えを伝え合い、地域や世界とつながろうとする児童の育成～本物で必然性のある外国語活動・外国語科を目指して～」であり、本校の考える仮説についての基本的な考え方は次の3つである。

#### 仮説

- 1 単元や発達段階の特性を踏まえて言語活動を工夫することにより、児童は、自分の思いや考えをもち、それを伝え合うための知識・技能を身に付けるであろう。
- 2 1単位時間または単元の中で、児童自身による評価（振り返り）や教師による評価を適切に行うことによって、児童は思考力・判断力・表現力を高めながら学習に取り組むであろう。
- 3 学びのつながりを意識して、様々な人々と関わるができる単元（新本オリジナル）を構成することで、英語によるコミュニケーションの楽しさを味わい、より広い世界に目を向けるであろう。

#### 1について

1年生は、これまでに2年生と一緒に活動することにより、より活動が楽しいと思えたり、動きややり方を理解して、スムーズに活動したりすることができている。そのため、英語での活動も一緒に取り組むことで、学習意欲や活動への期待感も一層高まるのではないかと考える。また、2年生という発達段階では、「下級生の手本になりたい」「下級生に分かりやすく教えたい」という意識をもつ児童が多い。そのため、1年生と一緒に活動をすることで、自分の思いを分かりやすく伝えようとする意識が芽生えるのではないかと考える。

本単元では、必要最低限の表現や語彙を用いた話型を示し、簡単なやり取りを様々な相手や場面において、何度も活用できるようにしている。本時では、1・2年生で好きな秋の果物についてインタビューをする。今回は相手が異学年になることから、前時にはなかった困り感や新たな気づきを得るはずである。これにより、相手意識をもって、児童同士がピア・サポートしながら活動し、繰り返しやり取りをすることを通して、どの児童にも自分の英語が伝わった実感をもたせ、伝え合うための知識・技能を身に付けられるようにする。

#### 2について

授業を主に進めるHRTと発音や発声の指導を行うALTで、それぞれの特徴を生かした役割分担をし、チームティーチングのよさを活かした評価をする。HRTが児童の実態を把握しながらサポートし、前時と比較してできるようになったことを伝え、ALTは、正しい発音や表現の仕方について繰り返し伝えていく。1・2年生で活動をする際の振り返りの時間には、互いに友達のよいところ見つけをすることが自然とできているため、英語の授業でも、そのような振り返りを引き出せるようにしたい。そのため、本単元を通して、振り返りで出た友達の良いところをホワイトボードに集めておく。そして、本時の活動では、自分は何をがんばりたいかを前時の振り返りから選んで、ネームカードを貼ることで、視覚的にもめあてを意識して活動に取り組めるようにする。そうすることで、児童の思考力・表現力・判断力を高められると考える。

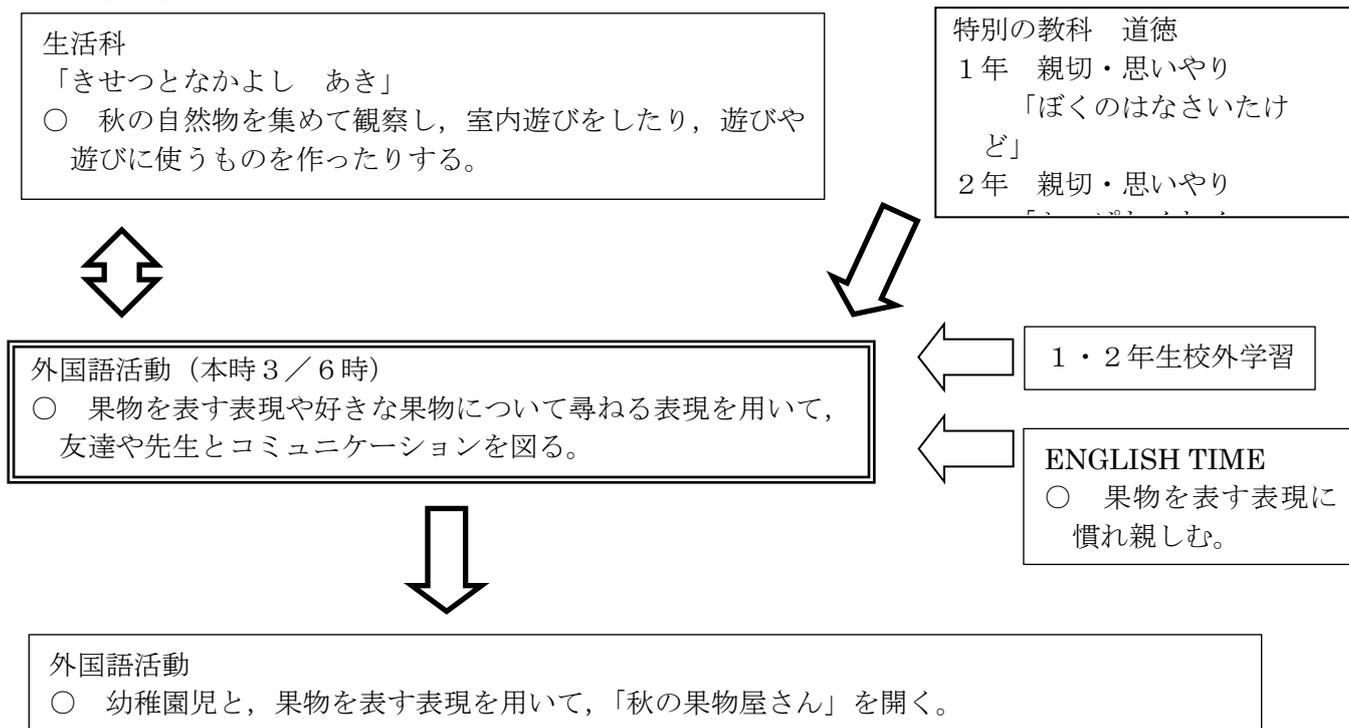
#### 3について

本単元では、生活科「きせつとなかよし あき」との関連を図り、学習を進めていく。生活科での校外

学習で秋の自然物に触れ、外国語活動でも「秋の果物」を教材として扱うことで、学びのつながりを意識できるようにしたい。1年生にとっては、本格的に英語学習が始まったこともあり、簡単な語彙や表現を用いてやり取りを重ね、英語でコミュニケーションを図る楽しさを知ってほしい。また、2年生は、1年生をサポートしながら活動をすることで、これまでの学習の積み重ねを活かしたり、自分の成長を感じたりして、さらなる学びの意欲を高めてほしいと考えている。

本単元を通して、それぞれのHRTとALTが様々な立場に関わることにより、児童が自分の思いを伝えやすくなり、コミュニケーションの楽しさを十分に味わうことができると考える。そして、本時では1・2年生が互いにに関わり合い、それぞれに学びを深めていく。1・2年生での英語を用いた交流の楽しさを感じた上で、英語をもっと使いたいという気持ちを持ち、次は幼稚園児とも交流したいという、より広い世界との関わりへと気持ちを膨らますことができるようにしたい。

## 6 関連構想図



7 本時案 (第3時)

(1) 本時のねらい

果物を表す表現や好きな果物を尋ねる表現を使って、1・2年生同士や先生方とコミュニケーションを図る。

1年生：既習の表現や語彙を用いて、コミュニケーションを図る。

2年生：1年生をサポートしながら、既習の表現や語彙を用いて、コミュニケーションを図る。

(2) 展開

学習活動	教師の指導・支援(●1年, ▲2年, ■ALT, ◆あじさい)	学習評価
<p>— 1・2年別で— 1年●◆, 2年▲■</p> <p>1 Greeting</p> <p>2 Warm up 「Do you like broccoli? song」</p> <p>3 Review ・ Chants で fruits</p>	<p>●▲ 英語で挨拶をした後、気分や天気、曜日、日付などについて尋ねることで、日常的に使える英語表現に慣れ親しむことができるようにする。</p> <p>■◆ 参加しにくい児童や困っている児童に声をかけたり、一緒に声を出したりする。</p> <p>●▲ 体も使いながら元気に歌うことで、本時の学習に楽しく取り組むことができるようにする。また、しっかり声を出すことができるようにする。</p> <p>■◆ 児童の近くで一緒に歌うことで、安心して活動できるようにする。</p> <p>●▲ チャンツのリズムに乗りながら発音することで、基本的な表現を楽しく復習できるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>Do you like (秋の果物)? →Yes, I do./ No, I don't.</p> </div> <p>■◆ 児童の近くで一緒に声を出すことで、全員が安心して活動に参加できるようにする。</p> <p>■◆ 困っている児童に声をかけたり、一緒に発音したりすることで、全員が声を出して復習できるようにする。</p> <p>■ 間違いやあいまいな発音は、聞いて復唱させることで正しく発音できるようにする。</p> <p>●▲ 前時で自分の好きな秋の果物について話したことを想起させ、本時は1・2年生同士でインタビューをすることを伝え、相手の話すことを十分に聞き取ってやり取りするというポイントに気付けられるようにする。</p> <p>●▲ 本時で取り組む Aim について各学年で話し合い、それぞれのめあてや見通しをもって取り組むことができるようにする。</p> <p>●▲ 前時までの振り返りをホワイトボードにまとめたものを見せて、本時で活かせるようにする。特に2年生は、1年生がどんなことで困りそうか、どのようにすると1年生が尋ねたり答えたりしやすいかなどを中心に、</p>	



8 Greeting	<ul style="list-style-type: none"> <li>●▲ 自分の頑張りを振り返るとともに、相手の学年がどのような思いをもって活動していたのかを知ることができるようにする。</li> <li>●▲ 1・2年での交流を踏まえて、幼稚園児との交流へ視野を広げたり意欲を高めたりすることができるようにする。</li> </ul>	
	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園の友達ともやってみたいと思いました。</li> <li>・幼稚園の友達にも好きな果物について聞いてみたいです。</li> <li>・〇〇さんが上手に言うことができているとすごかったです。</li> <li>・〇年生と一緒に協力しながらできて楽しかったです。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 発音や話し方についてよいと思ったことや次時への課題を伝えることで、次時への意欲を高められるようにする。</li> <li>▲ 1年生の姿でよいと思ったことを称揚することで、本時の学習への達成感を得られるようにする。</li> <li>● 2年生の関わりでよいと思ったことを称揚することで、次時への意欲を高められるようにする。</li> <li>◆ 1・2年生の関わりや本時でできるようになったことを称揚することで、異学年での交流のよさを感じられるようにする。</li> <li>● 気持ちのよい挨拶をすることで、本時を気持ちよく締めくくることができるようにする。</li> </ul>	

(3) 板書計画

Greeting	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>すきな あきのくだものを たずねたり こたえたりしよう。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><u>1ねんせいの Aim</u> 2ねんせいにインタビューをしよう。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><u>2年生の Aim</u> 1年生をサポートしながら、インタビューをしよう。</p> </div>	果物絵 カード	果物絵 カード
Warm up		果物絵 カード	果物絵 カード
Review		果物絵 カード	果物絵 カード
Aim		果物絵 カード	果物絵 カード
Activity		果物絵 カード	果物絵 カード
Comment time		果物絵 カード	果物絵 カード
Greeting		果物絵 カード	果物絵 カード